

水芭蕉・繁殖回復対策のモニタリング(植生調査)報告書

1、モニタリング実施目的

「村の重点施策」の一つである「観光資源の保全と地域振興」を図るべく、裏磐梯の観光資源の一つである「水芭蕉の群生地」の経年変化を見ると、年々花が小さくなり、且つ、数が減少して消滅の怖れがある。この要因は「草木の根の繁茂と枯れた茎の堆積」であり、最も悪い影響を及ぼしているのが「葦」である。葦の堆積は水質汚染と湿地帯(小沼)の消滅要因にもなっている。水芭蕉の消滅を防止し、以前の様な水芭蕉の群生地に戻して保護する対策案を実証するために行う。

2、モニタリング実施計画・スケジュールと実施日の記録

詳細な実施計画・スケジュールは「報告書-1ページ」による。
モニタリング予定日と実施日の記録を下記に示す。

H22年										H23年				
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
◆現場調査(計画書作成の下調べ) (3月29日実施)														
◆計画書(具体策)作成					(3月30日実施)									
◆調査位置決定					(4月10日実施)									
◆コドラート設定、作業実施					(4月10日実施)									
◆調査実施(満開時)					(4月24日・5月21日実施)									
				◆葦刈	(7月10日、									
				(葦刈は中止)	◆葦刈・除去									
												調査実施	◆(5月11日実施)	
												報告書提出	◆	
													(作成)	

3、結果

実施結果の記録は別紙「水芭蕉・繁殖回復対策のモニタリング報告書」によるが、概要は次の通りである。

- 1、葦の堆積が水芭蕉の繁殖・成育を阻害している事が分かった。葦の堆積量を調節すれば水芭蕉の消滅を防止でき、且つ、繁殖・成育にも効果がある。 (第1、2回記録-2, 3, 4, 5頁)
- 2、葦の繁茂を抑制するための夏場の葦を刈り取ることは、刈り取り時に水芭蕉の葉を踏みつけてしまうので、今回は中止した。踏みつけ防止策が確立できれば刈り取りの効果は実証できる。

[刈り取り中止の理由]

夏場に水芭蕉は来春の開花に備えて養分を葉から根に蓄えるので、葉を踏み荒らしてはならない。
(第4、5回記録-7, 8頁)

4、今後のモニタリング

平成23年11月に村の管理者が水芭蕉群落の全面にわたって葦と細い雑木を刈りはらい、葦は除去せずにその場に散積した。その結果がH24年4月の開花時に確認できるので、その結果と今回のモニタリングの結果から今後の葦刈り方策を決める事が出来る。24年の秋にはベストな方法で葦刈りを行い、継続してモニタリングを実施する予定である。

5、考察

葦の刈り取り・除去の効果は確認できたので、更に、夏場の刈り取り(間引き)で水芭蕉を痛めずにやれる方法を見つけて、今後もモニタリングを兼ねた観光資源の保護事業としてに継続する。

問題は手間(費用)と刈り取った葦の処理であるが、手間(費用)は行政の理解と協力で解決できる。刈り取った大量の葦はバイオ燃料で発電所にて処分できる事を確認してあるのでネックにはならない。

6、モニタリング及び作業者

モニタリング： 小野 明 (裏磐梯エコツーリズム協会)

作業者： 北塩原村シルバー人材センター会員・若干名